



# まちの話題



## 地域のシンボル 辛夷の木を次世代に

万年老人クラブ(大場博義会長、会員26人)は、万年地域会館で万年の辛夷「初々縄」式を開き、太い幹にしめ縄を巻き、いわれを記した銘板の除幕を行いました。辛夷の白い花は種まきや田植えの時期を知らせ、天候や作柄を占う木でもあったことから、「農諺木」といわれ、この木は樹齢約100年を数えます。大場会長は「将来にわたって地域に寄り添う歴史ある木を地域の子どもたちに見守ってほしい」と話していました。



## スポーツ賞等表彰式 が行われました

令和2年度音更町スポーツ賞等表彰式が文化センターで行われ、全道・全国大会などに出場した成績優秀者とスポーツの振興・普及に貢献した24人が表彰されました。長きにわたり町柔道連盟の発展に寄与し、スポーツ功労賞を受賞した稲垣充さんは「受賞できたのは、私たちに与えていただいた素晴らしいスポーツ環境さらにご指導、ご支援をいただいた多くの人々のお陰です」と謝辞を述べました。





これからも気を引き締めて  
活動していきます



音更町消防団の有賀克幸団長が、長年にわたり災害の防除と消防力の強化に尽力されたことにより、消防庁長官功労章を受章し、小野町長から章記と徽章が伝達されました。有賀団長は「関係者の皆さんの支えにより現在も活動し、責務を果たし続けられていることに感謝している」と話し、今後の活動にも意欲を見せていました。



花を飾りまちを美しく



フラワーシンフォニー(塚田洋子会長、会員17人)と音更高校の農業倶楽部(今野あいか部長、部員4人)は、色とりどりのパンジーをプランターに植栽し、道の駅おとふけと役場の玄関前に飾りました。フラワーシンフォニーは花のあるまちづくりを目指して活動を続けています。関心のある人は事務局長の平田松征<sup>まつゆき</sup>さん(☎42-6130)へ。



水彩画・油彩・日本画などが  
色鮮やかに



音更美術協会(國枝昭会長、会員26人)が図書館で第21回目となる展示会を開催しました。風景画や人物画など48作品が展示され、展示期間中は、約700人の来場がありました。吉田勝之事務局長は「会員の作品を見て、自分も描いてみたいと思ってもらえるとうれしい」と話していました。関心のある人は吉田事務局長(☎42-3235)へ。



地域に根付く  
農家を目指して



町に移住して新規就農を目指す「音更町農業後継者確保対策事業」で、平成31年から2年間の研修を行っていた古賀野伸生さんと理紗さんが町長に修了報告を行いました。2人は今後キュウリやホウレンソウ、長ネギの生産を行います。伸生さんは「まず自立することを目標とし、地域に根付くような農家を目指します」と今後の抱負を話してくれました。